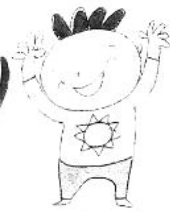


ゆりがご えんだより

2021・5・1

1期(4・5月)のねらい
新しい先生・友だちと仲よくなる



保育園を見学される方に、必ずお伝えするようにしていることの一つに、「大人が関わる行事が他園に比べ多い」ことがあります。面倒だと思われる方もいらっしゃるでしょうが、

私たちは子どもの発達・成長には家庭と園

のつながりがとても重要だと考えています。その相互関係を図り、つながる手だてとして、日々の連絡ノートやお便り、懇談会などがあります。いずれも保育内容や子どもの様子をお知らせするという、園から家庭の一方のものではなく、両者間の受けとめて返すというボールの投げ合いを通して子どもも大人(保護者や保育者)も成長していけると良いと思います。信頼関係を築くためにも、受けとめ方がズレたり、返すタイミングが合わなかったりすることのないう、心がけたいと思っています。

さて、クラス懇談会ですが、以前は4月・6月・9月・11月・1月・3月の年6回開催していました。当時は父の参加がとても少なく、父たちにも参加してほしいと、9月を父親懇談会と位置づけていました。また、1月は羽根つきやコマまわしなど、クラスをこえたお正月あそびの交流を兼ねて行っていました。

その後通常の懇談会にも父たちの参加が増えたことやあそびの交流よりも懇談を重視しようと考へ、年に5回の開催になりました。一昨年からは父母の勤務状況も厳しくなってきたので、4回に減らしての開催にしてみました。

しかし、昨年度はコロナの影響で中止せざるを得ない時期があり、結局2回しか開催できませんでした。父母の会主催の新入園家庭歓迎会・バザー・夏まつり・おやじの会主催のあつかんパーティーなど、飲食を伴う行事が中止になり、子どもも大人もがっかりしました。これらの行事は今年も開催は難しそうですが、懇談会は工夫すれば何とか開催できるのでは、昨年度のようにやむを得ず中止となる回があっても影響が少ないようにと、回数を1回増やし5回の開催を予定することにしました。

なぜ忙しい思いをしてまで懇談会をするのか？

それは子どもを真ん中にして周りの大人たちが協力し合い、共に成長することをゆりがごが目指しているからです。そこには保育サービスを受ける側と提供する側というとらえ方では決して感じることでない喜びがあります。

今年度1回目の懇談会が終わりました(さくらんぼ組はまだですが)園側に至らない点もあったと思いますが「参加してよかった!」「実りのある時間だった」と感じてもらえるような懇談会になるよう、皆さまのご意見をお寄せください。